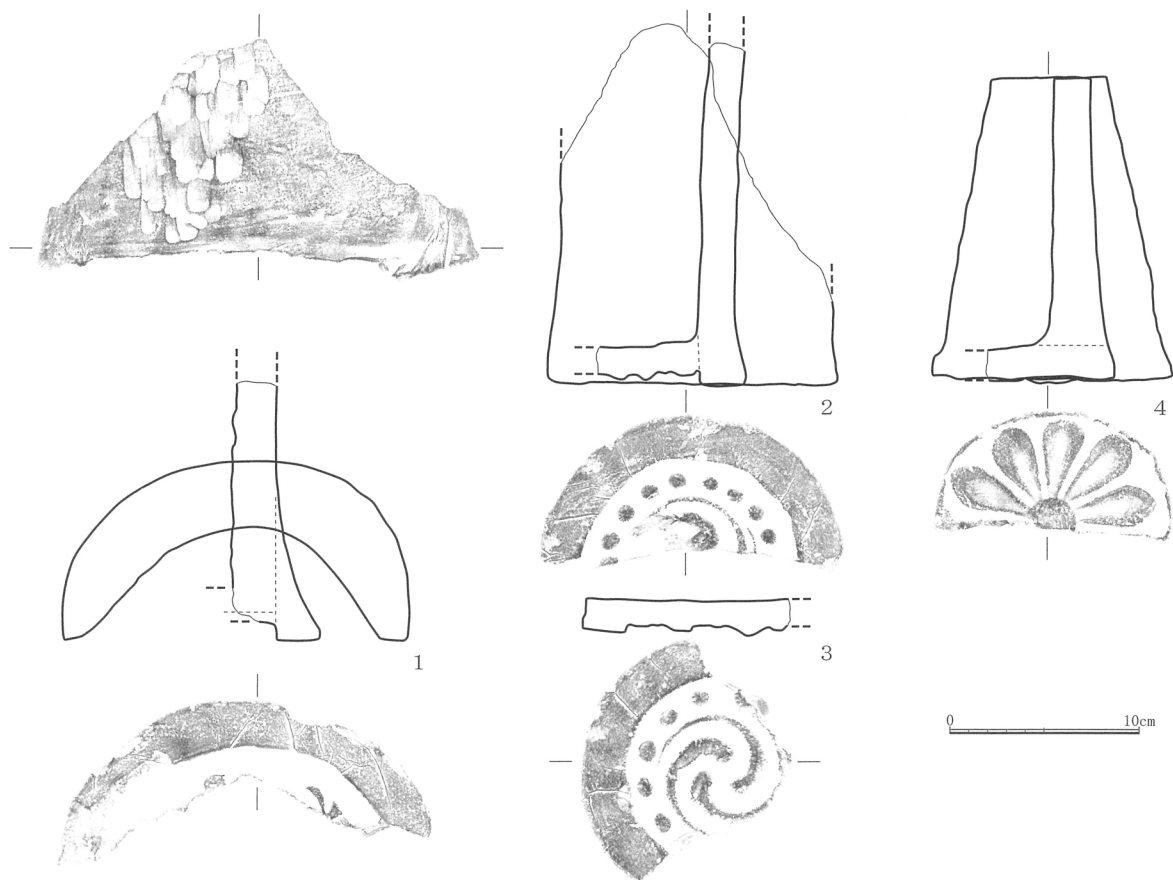


## 明治天皇 伏見桃山陵第3鳥居ほか改築工事に伴う立会調査

明治天皇伏見桃山陵は京都市伏見区桃山町に所在し、かつての伏見桃山城内に営建されている。この伏見桃山陵の第1・3鳥居（墳塋に近い鳥居から第1鳥居、第2鳥居、第3鳥居と称している。）が、経年のため老朽化したことから改築されることとなった。そのため古い鳥居を撤去するためにそれぞれの鳥居基礎部分を掘削した。この掘削については、各鳥居の基礎にはすでにコンクリートのソケット状基礎があり、今回もその基礎を使用することとなったので既掘の範囲にとどまり、新たな遺構・遺物は出土しなかった。

その一方、新たに第3鳥居の周囲に雨水浸透管などを埋設する掘削を行った。掘削規模は総延長23m、幅は0.5～0.9m、深さ0.4～1.0mである。この掘削をバックホーにて行ったところ、鳥居西側において瓦が出土した。そのためただちに掘削を中止し周囲を精査したが、特に遺構は検出されなかった。さらに土層を確認したが、瓦の出土した地点は表土下の攪乱層であり、特に他と異なった土層ではなかった。そのため瓦のみ採集して、掘削は予定通り完了した。出土した時の所見から、この瓦はどこか別の場所で出土したものを、今回掘削した地点に廃棄したものと思われる。以下、出土した瓦について報告する。（徳田誠志）

1は軒丸瓦である。瓦当部分はほとんど剥がれているが、わずかに残った部分より、桐文と判断出来る。丸瓦の端部に瓦当用の粘土を足し、瓦当面を貼り付けている。また、棒状工具により、凹面をナデつけている。凸面にもナデの痕跡が残る。2は軒丸瓦である。瓦当は半分程度の残存状況だが、三巴文と判断出来る。丸瓦部の凹面には布目が、凸面にはナデの痕跡が残る。3は軒丸瓦である。三巴文で瓦当部のみが残る。瓦当部の裏面にはナデの痕跡が残る。4は菊丸瓦である。花卉中央が窪んでおり、本来は10弁花文と考えられる。瓦当部の裏面および、体部の凹面、凸面にナデの痕跡が残る。（横田真吾）



第47図 伏見桃山陵 出土品実測図 (1/4)



1 百舌鳥耳原南陵飛地に号 採集遺物 瓦



2 伏見桃山陵 軒丸瓦 (桐文)



3 伏見桃山陵 軒丸瓦 (三巴文)



4 伏見桃山陵 軒丸瓦 (三巴文)



5 伏見桃山陵 菊丸瓦